



富岡製糸場総合研究センターだより

No. 6

(2021年8月発行)

富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！

ひらいしん 避雷針を探してみよう

場内の建物を見上げると、ひがしおきまゆじょ東置繭所・にしおきまゆじょ西置繭所・そうしじょ繰糸所・しゅちようかん首長館の屋根の上と煙突の上に棒のようなものを見ることができます。アンテナのようにも見えますが、これは避雷針といいます。

避雷針は、雷から建物や人を守るため、先が尖った金属の棒を屋根の上を立て、雷が落ちると、その電気を地面の中に逃す装置です。

日本には、1800年代半ばに外国からの技術導入とともにもたらされ、1865（慶応元）年着工のよこすかせいてつじょ横須賀製鉄所や1868（明治元）年着工のかんのんざき観音崎とうだい灯台などに設置されていたと考えられています。現在では、高さ20m以上の建物などに設置する決まりになっています。

では、富岡製糸場にはいつから設置されていたのでしょうか。創業翌年の1873（明治6）年の資料には、煙突の説明文に「そのうえにじょらいしんをしるす其上ニ除雷鍼ヲ標ス」とあり、煙突に避雷針があったことがわかっています。富岡製糸場の設計者は、横須賀製鉄所の技術者であったバスティアンで、設計にあたり横須賀製鉄所を参考にしたとも考えられていますので、建設当初から設置されていたのかもしれませんが。なお、煙突と西置繭所の避雷針は当初のものではなく、建替えられていることがわかっています。

◆ 発行 ◆

富岡市世界遺産観光部 富岡製糸場総合研究センター

